

[報告] 神流川流域における大規模土砂災害に備えた 合同防災訓練を実施しました。

実施日時：平成26年1月21日（火） 10時30分～16時00分

実施場所：上野村役場

出席者：99名（内訳：訓練参加59名、見学24名、報道関係1名、事務局15名）

<実施目的>

近年、観測史上の記録を上回る大雨や集中豪雨が頻発し、全国的に土砂災害が多発しており、これまで以上に国や地方自治体等が連携し、迅速で的確な対応を行うことが求められています。このため、関係各機関の役割や情報伝達の検証を行うとともに、大規模な土砂災害が急迫した状況において、迅速かつ円滑に対処できる防災対応能力向上を図ることを目的に、大規模土砂災害を想定した合同防災訓練を昨年度に引き続き、第2回として実施しました。

訓練内容

・学習型訓練

- ステージⅠ【警戒～初動対応の実施】
- ステージⅡ【緊急調査～土砂災害緊急情報～警戒避難】
- ステージⅢ【応急対策・監視観測体制の検討】

・アンケート調査

・反省会・意見交換

反省、感想など様々な意見交換が行われました。（以下一例）

- 良かったと思われる点
 - ・他機関の動きや状況が把握できたので、非常に勉強になった。
 - ・災害への準備として有効であると思われるので継続して同様の訓練方式で行うべき。
 - ・学習型防災訓練は初めてだが、非常に効果的な訓練だと思った。
 - ・地すべりの訓練は初めてで、とても良い経験となった。
 - ・次年度開催される場合は、また声をかけて頂きたい。
- 改善が望まれる点や要望
 - ・リエゾンという意味の直ちに通じない言葉は避けた方が良い。
 - ・リエゾン、TEC-FORCEについて詳細情報を教えて頂きたい。
 - ・同じテーブルに各機関が集まった方がさらに良いのではないかと。
 - ・関係機関間で直接議論する時間があっても良いのではないかと。
 - ・住民避難への対応まで入れて、訓練を検討願いたい。
 - ・情報共有を必要とする機関が多数あるため、1回で情報共有可能なシステムの整備が必要であると感じた。

訓練状況

学習型防災訓練の概要

訓練方法：学習型防災訓練

「進行者」と「訓練参加者」にわかれ、状況提示を行った上で、「進行者」が対応について質問し、これに「訓練参加者」が回答する形式で進行する。このように、逐次対応する形で行うので、実時刻に基づいた進行とはならない。

司会進行者

訓練参加の各組織をひとつの災害対応本部もしくは災害対策本部と見立て、それぞれに対し質問する。

訓練参加者

質問内容に応じて訓練参加組織内での回答者を決めて、発表する。

神野所長による開会挨拶

訓練会場

上野村役場 丸山総務部長による講習

想定する災害現象

豪雨に伴う同時多発的土砂災害（神流町）
→土砂災害に伴う地区の孤立

大規模崩壊による天然ダムの形成（上野村）
→上流側の湛水進行と決壊（土石流）発生による下流氾濫のおそれ

緊急調査の対象となる地すべりの発生（藤岡市）
→地すべりの滑動に伴う10戸以上の人家への被害のおそれ

防災対応の訓練（本局、事務所、出張所）

へりによる緊急調査対応

土砂災害緊急情報（地すべりの例）

防災対応の訓練（群馬県、藤岡市、神流町、上野村、他機関）

監視計画及び緊急対策（天然ダム応急対策の例）

市町村の防災対応

担当：土砂災害G